「つながる」SDGs

「塵（ちり）も積もれば山となる」ということわざを知っていますか。これはごくわずかなものでも数多く積み重ねると動かしようのない広大なものになるという例えです。また小さな努力でもたゆまず続けていくと、いつか大きな成果が得られるという意味も持っています。

SDGs（持続可能な開発目標）と聞くと高い山のように感じるかもしれませんが、実は小さなことの積み重ねで、あなたにもできることがたくさんあります。世界の貧しい人への募金に協力すること、子どもに質の高い教育を受けさせること、男女の平等を考えること、使っていない照明を消すこと、環境に配慮した商品を選ぶこと、これらは全てSDGsの世界共通目標につながります。それぞれ違うようで持続可能な開発目標のためには欠かせないことです。

漠然とした大きな目標だから自分には関係ないと思わず、あなたの考えや行動が積み重なり、あなたと誰かがつながり、市全体の活動につながる。どんどん広がっていくことで達成できる、実は身近な目標なのです。

ITを活用した心が通う便利で心豊かな田舎暮らしで舞鶴版のSDGsを実現

本市の「ITを活用した心が通う便利で心豊かな田舎暮らし」を実現させるための施策は、まちの魅力を高め、好循環を生み出しています。「2021年版第9回『住みたい田舎』ベストランキング」では、近畿エリアで総合4位、子育て世帯が住みたい田舎部門で10万人以下の都市で全国9位と高い評価を受けています。令和2年度の移住者は19組38人と過去最高となるなど、選ばれる地方都市として着実に実績を上げています。

本特集では移住定住の観点でSDGsに着目しました。文化・歴史、自然のある豊かな環境や質の高い教育は、住む人々にまちへの誇りを育み、住みたいまち、住み続けたいまちにつながります。

多様な連携のもとに先進技術を活用して、世代を超えた人と人とのつながりや助け合い、お互いを思いやる施策。この市の総合計画はSDGsにもつながっていて、地域の皆さんがこれから考え、その先の未来を見据え、次世代のために取り組むまちづくりを進めていきます。

3世代同居・近居

子育てや三世代同居・近居のためのリフォームなどにかかる費用を補助しUターンしやすい環境を整えます。

目標11 住み続けられるまちづくりを

包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する

文化財の活用

旧鉄道トンネルの北吸トンネルを自転車・歩行者専用の道として活用するよう文化財も活用します。

居住促進住宅

市への移住者を主な対象に、空き家を活用した居住促進住宅を比較的安価で貸し出します。

目標15 陸の豊かさを守ろう

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

目標14 海の豊かさを守ろう

持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

目標4 質の高い教育をみんなに

すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

文化親善大使に田中彩子さん

文化親善大使の委嘱で質の高い音楽に触れる機会を創出し、夢や希望を持って生きることの素晴らしさを伝えます。

若者チャレンジ事業

ＩＴに強い人材を育て、地域で活躍してもらうことで地域課題の解決につなげることを目指します。

海ごみ環境学習ガイド

野原観光協会を中心に海ごみを学習し、教育や企業研修に役立てるワーケーションを実施しています。

コウノトリの飛来

コウノトリが住める自然環境が少ない中、市内での飛来が発見されています。今後もこの豊かな自然を守ります。

あそびあむ

大人も子どもも楽しめる子育て交流施設で子ども達に五感を使う「あそび」をサポートします。

私たちのSDGs

「SDGsって知っていますか」の問いかけをはじめ、SDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」目標4「質の高い教育をみんなに」目標14「海の豊かさを守ろう」目標15「陸の豊かさを守ろう」を中心に、インタビューしました。

居住促進住宅4号に関わった
舞鶴高専専攻科2年 東 暖人さん

居住促進住宅4号の調査に行ったとき思ったのは「川越しに山が見える景色がきれい」でした。家の中からその景色を切り取って見ることができるように箱窓を作り、地域の人とくつろぎながらコミュニケーションが取れるようにと玄関を広くして、腰掛けられるように工夫しました。またゆとりを持てるように梁（はり）を見せることで縦にも空間を作りました。

調査のときから近所のおばあちゃんが見に来てくれたりと、舞鶴は人との距離が近く感じました。隣近所が外部からの人を歓迎してくれると移住が促進され、住みやすい環境になると思います。

居住促進住宅4号に関わった
舞鶴高専専攻科2年 海邊 華恋さん

一人暮らしをしているのですが、困ったときは近くに頼れる人がいてほしいと思います。隣にいる人が分からないのが普通になってきましたが、ご近所付き合いがある方が自分にとっても地域にとってもいいと思います。建物の改修を通して地域の人とコミュニケーションが取れ、地元への愛着が湧き、それがSDGsの掲げる「住み続けられるまちづくり」につながるのはいいなぁと思いました。地元がにぎわっていると、外から見てもそれが魅力的になって住みたい・住み続けたいと思う好循環になればいいですね。

三世代同居をしている
内藤幸吉さん、あけみさん

今年の2月から息子たちと一緒に住んでいます。広報まいづるや新聞で市の三世代同居の補助金を見つけ、タイミング良く活用させてもらいました。私も仕事を続けていますが、休日は農業もしていて息子や孫が手伝ってくれます。孫のような小さい子がいると近所の人もたくさん話に来てくれます。若い人がいると地域が明るくなるのでいいですね。孫が幼稚園で習ってきた歌を歌ってくれるのが毎日の楽しみになっています。SDGsは知りませんでしたが、住み続けられるまちのために若い人が必要だと思います。

コウノトリ野生復帰事業特別協力員で日本野鳥の会 舩本明さん

コウノトリの調査にあたり、コウノトリの郷（さと）公園と連携して情報提供しています。一度絶滅してから人工飼育し、現在野生として200羽以上に数を増やし、舞鶴でも飛来が目撃されています。コウノトリは警戒心が強いので150㍍以上離れる、地元住民に迷惑をかけないなど観察者のマナーも大切です。舞鶴は希少種を含め200種近くの鳥類がいます。そして湿地生態系の頂点のコウノトリがいることは、それを支える昆虫や両生類や爬虫類がいて、自然の豊かさの証明になります。SDGsが環境のことを考えるきっかけになればうれしいです。

舞鶴高専建設システム工学科教授
尾上 亮介さん

高専として複数の居住促進住宅に携わることでスタッフが育ち、いいものができるなど教育の質も上がっています。1戸の住宅を改修して1組の住民が入るということは空き家全体の問題としては小さいのかもしれませんが、そこに地域の人が結びつくことで1組の出来事ではなく広がりができます。空き家も使えない状態で放っておくのではなく、活用しやすい環境にできれば新しい住み方や次世代のまちづくりに生かせます。整備されて空いている家ならまちのゆとりにもなり、いろいろなものに化ける可能性があるのではないでしょうか。

あそびあむを訪問していた
巽さん一家

うちは核家族で親のつながりが子どもの友達にも影響するので、あそびあむや子育てひろばなどに行っています。自然の中で伸び伸びと遊んだり、たくさんの人と関わったりして育つことが子どもにとって質の高い教育ではないかなと思います。あそびあむは木のおもちゃがたくさんあり、外でも遊べるので週2、3回くらい通っています。子どもにはいろいろなことを経験させてあげたいので、早くコロナが落ち着いていろいろな所へ連れていきたいですね。

三世代同居をしている
内藤文哉さん、由佳さん、蒼太くん

子どもが生まれてから、子育ての環境も考えるようになり帰郷しました。庭が広いので走り回れるし、自然の中で四季の移ろいが感じられるので、以前住んでいたアパートより伸び伸びと子育てができています。SDGsはテレビ番組で連日紹介されているので少し知っています。陸の豊かさや海の豊かさが舞鶴にはあるので住みやすいと思います。今は父に農業を教わっていて休みの日も忙しく、話し相手も多いのでついついお酒の量も増えてしまいますね。

舞鶴中高生合同合唱団を指導する
中野 紗織さん、川﨑 美耶子さん

田中彩子さんが文化親善大使に就任されたことはプロの歌声に触れる機会ができ、子ども達にとっていい経験になると思います。委嘱式のスピーチも素敵で「自分らしく曲げない意思」など夢を持つことの大切さを教えてくれ、生の歌声の迫力は、言葉で教えるだけでは伝わらない音楽の深みや情熱を感じてもらえたと思います。今後、オーケストラを交えて「市民の第九」を合唱しますが、練習で一緒に歌う人とのコミュニケーションは子ども達の成長につながりそうで楽しみです。希望者全員が合唱に参加するチャンスがあったのも良かったと思います。

SDGs未来都市としてAI（人工知能）やIoT（さまざまなモノがインターネットでつながる）などの最新技術を活用して人と人とのつながりや助け合い、お互いを思いやる「共助」の仕組みをつくり、地域課題を解決する未来型のスマートなまちの実現に向け、さらなる取り組みを進めています。

現在進めている取り組みの1つである、持続可能なまちづくり（再生可能エネルギー自給率向上への挑戦）を紹介します。

《生活環境課》

◆地域エネルギービジョンを策定

国は日本のエネルギー施策について、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする「脱炭素社会の実現」を目指すことを宣言し、省エネルギーを徹底し、再生可能エネルギーを最大限導入すること、また、安全最優先で原子力政策を進めることで、安定的なエネルギー供給を確立するという方向性を示しています。

本市の環境施策では「第7次舞鶴市総合計画」に基づき「低炭素化の推進」や「環境価値を創造するまち」を掲げ、社会と環境と経済が調和した持続可能なまちづくりに取り組んできました。また、国などの支援を得ながら、再生可能エネルギーの地産地消の取り組みなどを推し進めています。

このような地域エネルギーを活用した持続可能な地域づくりのため、本市では、2021～2030年度までの10年間を計画期間とした「舞鶴市地域エネルギービジョン」を策定しました。

本ビジョンは、地域エネルギーに関わる目指すべき姿、施策の方向性、達成すべき数値目標を地域全体で共有し、一体となって取り組むアクションプランを取りまとめたものです。

これからのエネルギー政策は「環境」「社会」「経済」が好循環する仕組みを地域全体で構築することが重要であり、本市にある、日本海側の重要港湾である京都舞鶴港、ものづくりなどの産業基盤、豊かな自然など、恵まれた地域資源を最大限に生かした取り組みを進めることで、全国の地方都市のモデルとなるまちづくりが展開できると考えています。

市民や事業者、教育機関など、多様な主体と連携し、本ビジョンを推進。持続可能な社会を目指して「地域の人と資源をつなげ、新たな環境価値を創造するまち『舞鶴』」の実現を目指します。

◆公共施設への再エネの導入

令和2年度に「舞鶴文化公園体育館再生可能エネルギー導入実装事業」として、オムロンソーシアルソリューションズ㈱と連携し、太陽光発電設備や蓄電池、LED照明器具設備などの再生可能エネルギーや省エネ設備を文化公園体育館に導入。これにより再生可能エネルギーの自給率を高め、温室効果ガス排出量の抑制ができます。また、同体育館は避難所に指定しており、災害時に自立的な電源により照明・通信機器などの使用ができるなど、防災機能の強化を図ることにもつながっています。

さらに、EMS（エネルギーマネジメントシステム）を導入して設備の運用改善を図るとともに、発電データを見える化し、環境学習の場としても活用しています。

また、これまでに中総合会館、西総合会館、大浦会館、加佐公民館、南公民館などに太陽光発電設備を導入するなど、公共施設への再生可能エネルギーの導入を進めています。

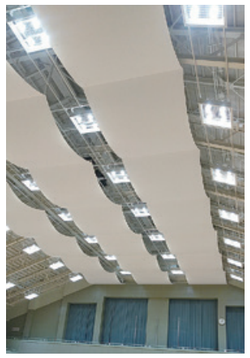
INTERVIEW

オムロンソーシアル
ソリューションズ㈱
吉森健人さん

エネルギーを起点とした地域創生事業で、2019年から市と連携し舞鶴版Society5.0エネルギーチームの中で、2030年舞鶴市公共施設RE100（公共施設の電力を地域の再生可能エネルギーで賄う）を目指して取組を進めています。

本件はその第1弾ですが、特に再エネ率向上・防災強化と経済性の両立に苦労しました。具体的には、本設備導入前よりエネルギーコスト（電気代）が下がる設計を実施、徹底的なコスト削減を図りました。ただしデザイン的価値も両立したいと思い、見える化画面デザインは、芸術専攻大学卒の私自身が実施しました。ぜひ、体育館に訪れた際は入口の見える化モニターをご覧ください。

国は今年4月に2030年における温室効果ガス削減目標を26%から46%への引き上げなどを表明し、脱炭素化の流れは一気に加速しています。この世界的課題に、舞鶴から日本、そして世界へと新たな地域エネルギーを起点とした地域脱炭素化展開を、市と共にチャレンジしていきます。今後もご期待いただくとともに、引き続きご理解・ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



▲文化公園体育館に導入した再エネ・省エネ設備
（左上）EMSでエネルギーの使用状況の把握・管理、情報の見える化を実現
（左下）太陽光パネルで再生可能エネルギー自給率が向上
（右上）蓄電池とパワーコンディショナーで災害時でも電気が使用可能に
（右下）LED照明で省エネや二酸化炭素などの削減に

事業スキーム（計画・枠組み）

◇オムロンソーシアルソリューションズ㈱が設備を導入し保有
◇市が設備をリース契約で10年間使用（電気料金の削減でリース料を確保）
◇10年後、設備は無償譲渡

導入設備

◇太陽光パネル…32キロワット
◇蓄電池…58キロワット時
◇LED照明…450台
◇EMS…稼働状況の見える化（モニター）など

舞鶴の未来予想図

～舞鶴市地域エネルギービジョンから～

環境側面・社会側面・経済側面で質の高い市民生活を維持し、地域資源をうまく活用することで、将来世代に、より良好な環境を継承し、新たな価値や産業が創出されていく社会が形成される地域を目指します。

◆環境側面（脱炭素化）

脱炭素化に向けて、市内の全関係者（市民・事業者・教育機関等・市）が実行すべき基本的な戦略を「戦略Ⅰ：新たな環境スタイルへの適応」と設定。

市内の全関係者が新しい環境価値のもとで、新たな生活や企業スタイルに適応することが必要です。

◆社会側面（防災力強化）

安全・安心で、便利で暮らしやすい社会を実現させるための戦略として「戦略Ⅱ：災害時におけるエネルギー供給体制」「戦略Ⅲ：再生可能エネルギー利活用に向けたインフラ整備」の構築を設定。

本市は、台風や豪雨による水害・土砂災害が多くなっているほか、太平洋側の大災害時のリダンダンシー（※）を確保する役割を担っており、災害時にエネルギー供給が可能となる備えが求められています。また、災害発生時だけでなく、平時でも地域で創ったエネルギーを選択して利用するための情報や設備整備など、再生可能エネルギーを上手に活用するためのインフラ整備が重要です。

※リダンダンシー…自然災害などでの障害発生時に備え、あらかじめライフラインなどの多重化や予備の手段が用意されている状態

◆経済側面（地域活性化）

市で創られる再生可能エネルギーは、バイオマス発電や太陽光発電などがあります。また、港湾部にはエネルギーを多く利用している工場が立地し、工場から排出される廃熱も多く存在しています。これらの地域のエネルギーを上手に活用し、経済側面が目指す社会を実現させるための戦略を「戦略Ⅳ：地域に根差した再生可能エネルギー産業の促進」と設定。

市が中心となり、教育機関や事業者などと連携して取り組んでいきます。

将来目標像

持続可能な社会を目指して、地域の人と資源をつなげ、
新たな環境価値を創造するまち「舞鶴」

環境側面

脱炭素化

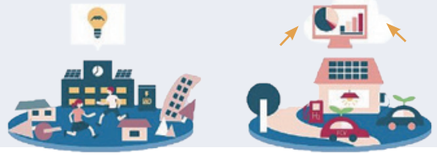
省エネや再生可能エネルギーを効果的に取り入れることで、地域で消費するエネルギーから、二酸化炭素を排出しない、クリーンで環境にやさしい社会を目指す

社会側面

防災力強化

地域内の避難所等には、再生可能エネルギーと畜エネルギーが整備され、災害によって商用電力が停止した場合にもエネルギーが供給できる市民にとって安全・安心な社会を目指す

最先端のICT・IoT技術を活用し、エネルギー情報を収集・活用し、平常時はもとより、災害時にも安全・安心な便利で暮らしやすい社会を目指す

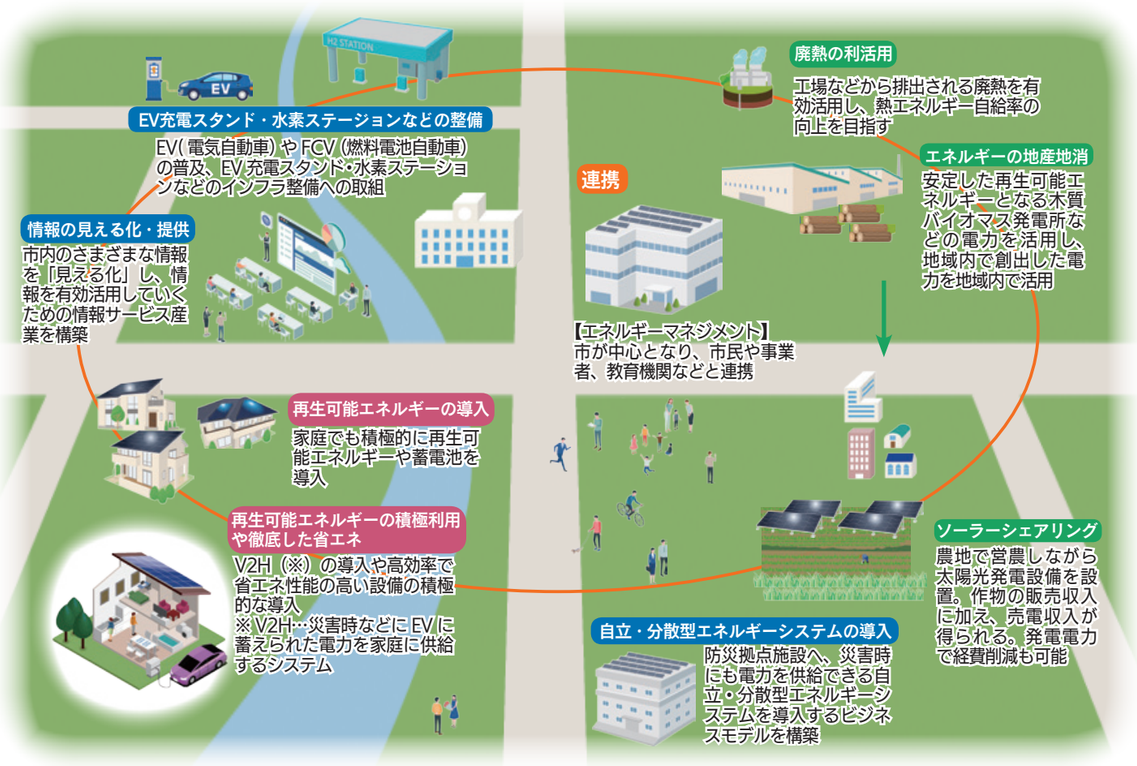


経済側面

地域活性化

地域の資源と資金が地域内で循環し、既存の地場産業だけでなく、新しい個性豊かな産業が地域内で展開され、地域の経済が自立した社会を目指す

将来目標像を実現するための取り組み例



私たちにできること

無理をしない新しいスマートなライフスタイルへの挑戦

家庭でエネルギー消費量を把握

省エネ行動を実施するための第一歩として、検針票や電力会社などのウェブサイトやアプリなどで家庭でのエネルギー消費量を把握する。

効果的な省エネ行動

照明のLED化や使わない照明の消灯、冷暖房の温度設定、その他家庭での節電対策で効果的な省エネを実施する。

再生可能エネルギーや蓄電池などを積極的に導入

家庭や事業所などでも自らエネルギーを創り、使うため、太陽光発電や太陽熱の利用促進、バイオマスを活用したボイラーやストーブ、蓄電池を導入する。

ガソリン車などからEVへの買い替えやV2Hシステムの導入

エコな車への買い替えや、太陽光発電の電気を最大限活用するため、EVなどを蓄電池として活用できるシステムを導入する。